

事業の効果



国土交通省

中国地方整備局

Ministry of Land, Infrastructure and Transport
Chugoku Regional Development Bureau

近年の高潮被害の実績 と事業効果

平成3年の台風19号による高潮被害では、1,643戸の家屋及び424haが浸水し大きな被害を出した。平成16年の台風18号では、平成3年を上回る観測史上最大の高潮となったが、高潮堤防整備により被害は大幅に減少した。



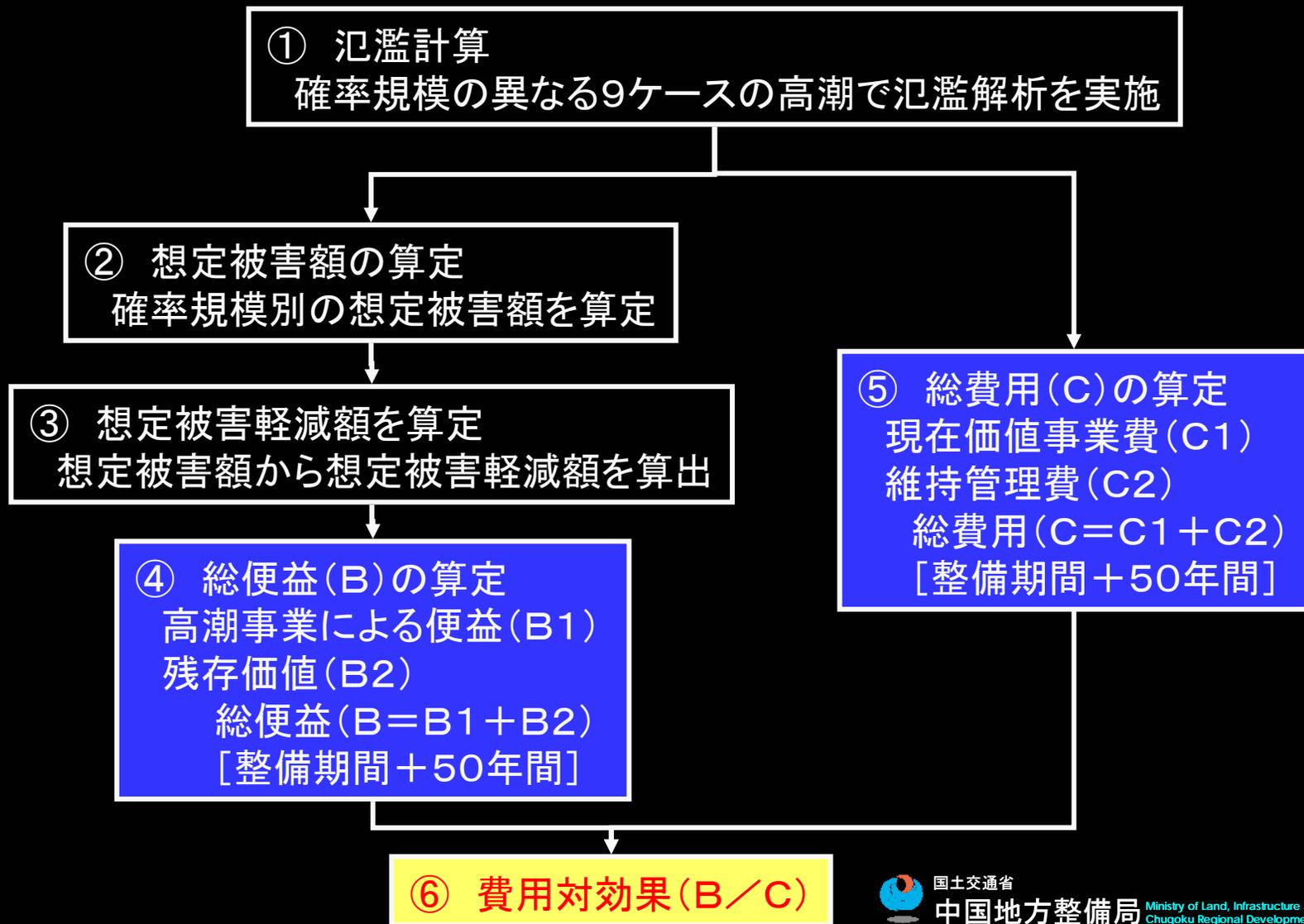
高潮被害

	観測潮位	浸水面積	浸水戸数
平成3年 台風19号	2.91m	424ha	床上浸水 423 床下浸水 1,220
平成16年 台風18号	2.96m	354ha	床上浸水 86 床下浸水 92

高潮堤防整備延長の推移(T.P+3.4m)

平成3年台風19号時(平成2年度末) 2,780m
平成16年台風18号時(平成15年度末) 11,395m

事業再評価の検討手法概要



費用対効果の分析結果

• 想定年平均被害軽減期待額	1, 520億円	
• 便益	33, 380億円	③
• 残存価値	8億円	④
• 総便益 (B)	33, 388億円	③+④

• 総事業費	1, 220億円	
• 現在価値事業費	812億円	①
• 維持管理費	128億円	②
• 総費用 (C)	940億円	①+②

• 費用対効果 (B/C) 35.5

事業実施の工夫



国土交通省

中国地方整備局

Ministry of Land, Infrastructure and Transport
Chugoku Regional Development Bureau

まちづくりと一体となった水辺空間整備（1）

「水の都ひろしま」構想の推進（H15.1策定）

都市再生プロジェクト 第4次決定 H14.7

「地方中枢都市における先進的で個性ある都市づくり」

水の都として今後の広島市の都市づくりの重要な戦略として位置づけるため

- ① 水辺などにおける都市の楽しみ方の創出
- ② 観光都市の主要な舞台づくり
- ③ 「水の都ひろしま」にふさわしい個性と魅力溢れる風景づくり

を目的として行政と地域住民が3つの柱のもと、「遊べる泳げる川づくりなど」と20の方針により水の都の整備を推進

実現への
3つの柱

水辺空間の整備とまちづくりとの一体化
(つくる)

水辺のライトアップ(元安川)



親水テラス(元安川)

市民による水辺の活用
(つかう)



河岸緑地の
オープンカフェ(元安川)
(社会実験中)

基町環境護岸でのデルタライブ
(水辺のコンサート)



水辺のネットワークと水の都の仕組みづくり
(つなぐ)



雁木タクシー



水上バスの運行

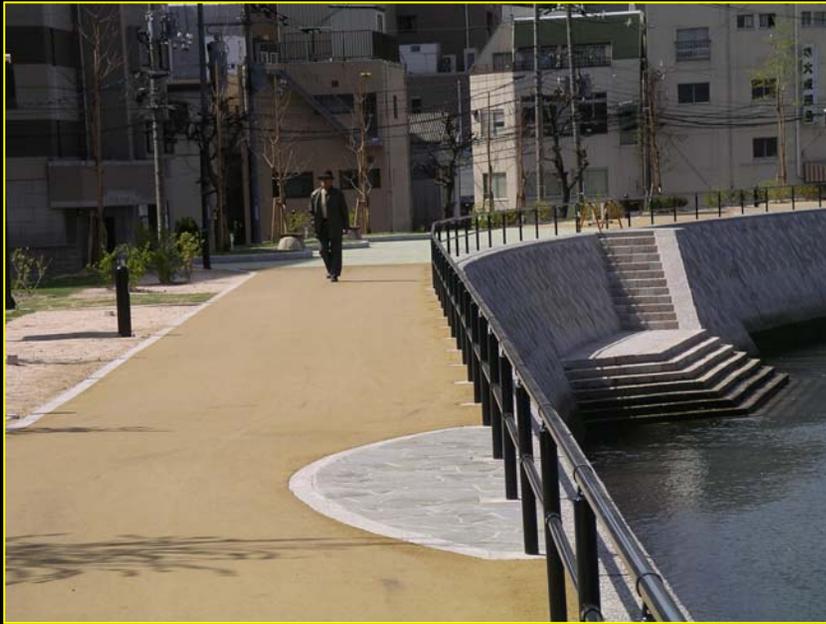


国土交通省

中国地方整備局

Ministry of Land, Infrastructure and Transport
Chugoku Regional Development Bureau

まちづくりと一体となった 水辺空間整備（2）



天満川舟入地区

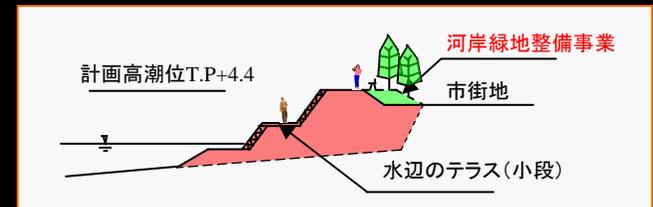
（高潮堤防と併せて親水性を持たせた河岸整備を行った例）



旧太田川加古町地区（アステールプラザ周辺）

（高潮堤防整備の後に堤防天端を広島市が河岸整備を行った例）

- ・国土交通省が高潮護岸建設時に、親水性を持たせたデッキテラスや景観に配慮した護岸整備を実施している。
- ・高潮堤防整備後に広島市により高潮堤防上の河岸緑地の整備として、植樹や公園整備を実施



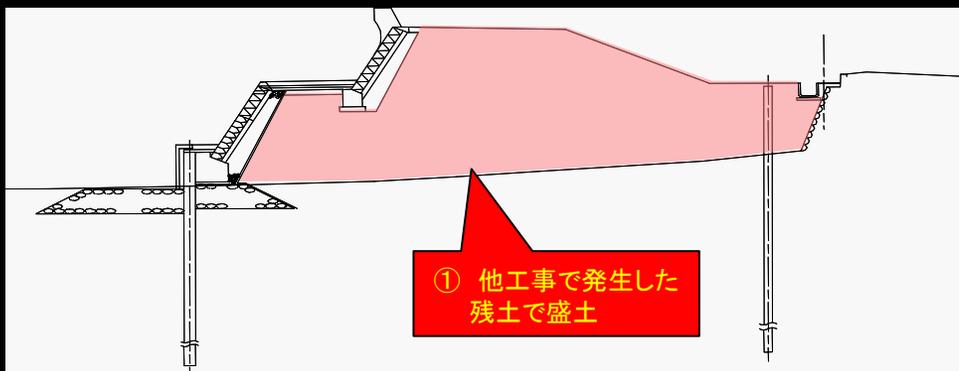
国土交通省

中国地方整備局

Ministry of Land, Infrastructure and Transport
Chugoku Regional Development Bureau

コスト削減対策

他工事で発生した残土を築堤材料として転用

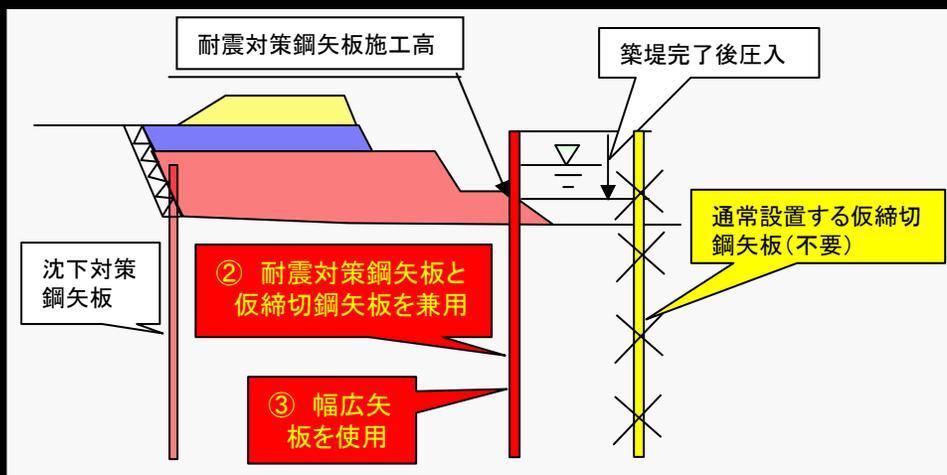


① 堤防用盛土の購入費が**不要**
盛土 1 m³あたり約 4 千円縮減

② 仮設費用が**不要**
矢板打設 1 mあたり約 4 万円縮減

③ 耐震対策矢板に幅広矢板使用で
通常矢板打設より約 3 割安く施工
矢板打設 1 mあたり約 5 万円縮減

耐震矢板を仮設矢板と兼用・幅広矢板の使用



工事延長 100m でみると

①盛土	316万円
②仮設	410万円
③幅広矢板使用	480万円
合計	約1,200万円

のコスト縮減が可能

さらなるコスト削減に向けて取り組んでいく



国土交通省

中国地方整備局

Ministry of Land, Infrastructure and Transport
Chugoku Regional Development Bureau

事業の進捗状況と見込み

太田川直轄河川改修（高潮事業）の事業進捗状況と予定

	事 項
昭和42年8月15日	広島県副知事を会長とする「広島地区高潮対策研究会」を発足
昭和43年6月	「広島湾高潮対策事業全体計画」を策定
昭和51年9月13日	台風17号により高潮被害発生
昭和53年9月15日	台風18号により高潮被害発生
昭和54年度	太田川高潮事業に着手（旧太田川の漁業補償を実施）
昭和55年度	旧太田川の舟入、吉島地先の工事に着手
昭和60年度	天満川の江波地先の工事に着手
平成3年9月27日	台風19号により高潮被害発生（当時の観測史上最高の2.91mの高潮を観測）
平成4年度	平成3年の台風19号被災箇所を再度災害防止区間として重点的な整備に着手
平成7年度	1月17日の阪神淡路大震災を期に耐震対策に着手
平成9年度	元安川の千田地先の工事に着手
平成11年9月24日	台風18号により高潮被害発生
平成15年度	元安川出島地区において床上浸水対策緊急特別事業として工事に着手
平成16年9月7日	台風18号により高潮被害発生。江波観測所で観測史上最高となる2.96mの高潮を観測（偏差観測史上最大2.06m）
今後の事業予定	
平成20年代初頭	再度災害防止区間の高潮対策事業が概成



国土交通省

中国地方整備局

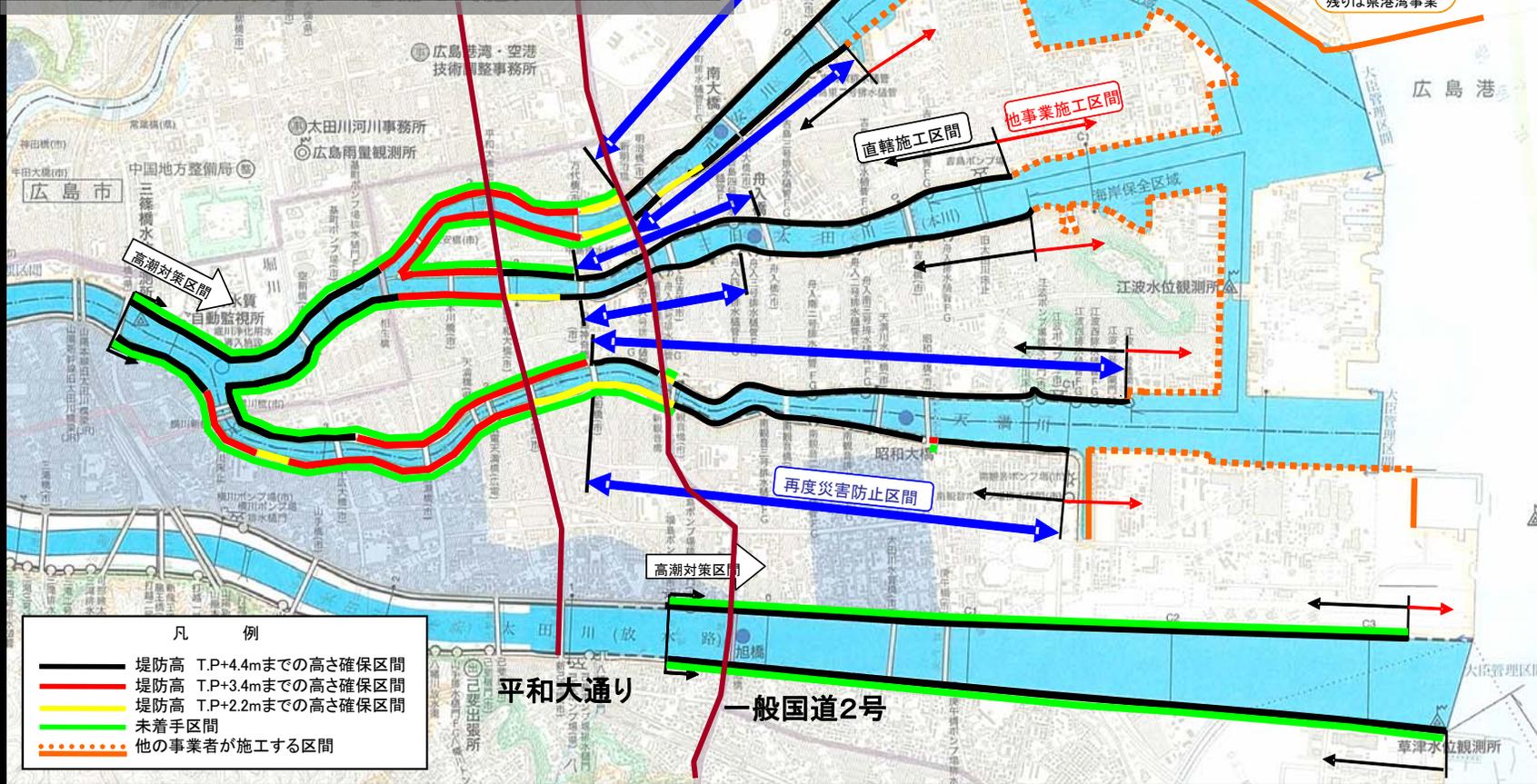
Ministry of Land, Infrastructure and Transport
Chugoku Regional Development Bureau

太田川直轄河川改修（高潮事業）の事業進捗状況

平成17年度末時点の予定

- ・河口から一般国道2号までは概ね概成。
- ・今後は再度災害防止区間を早期に概成させる。
- ・また観測史上最高の潮位T.P.+2.96mの堤防高はあるが、堤防断面も不足している平和大通りまでの区間を当面の目標区間として整備を実施。

他事業施工区間
において点線は
H17より広島港
海岸高潮対策事
業として直轄化
残りは県港湾事業



高潮対策事業の進捗状況と見込み

平成17年度末時点での高潮対策事業のうち再度災害防止区間でのT.P+3.4mまでの高さでの進捗率は90.4%である。

河川名	全体計画延長 (m)	うち再度災害防止区間延長 (m)	高潮堤防整備延長 (m)	進捗率 (%)	高潮堤防完成延長 (m)	進捗率 (%)
			T.P+3.4m			
元安川	6,100	3,980	3,495	87.8	0	0
旧太田川	8,000	1,600	1,600	100.0	0	0
天満川	10,000	5,290	4,730	89.4	0	0
放水路	4,200	—	—	—	0	0
合計	28,300	1,0870	9,825	90.4	0	0

※太田川放水路については現時点ではT.P+4.4mの堤防高が確保されており、当面の対策は不要。

高潮災害の防止は、堤防による高さ、断面を確保することが重要であるため

- ・平成20年代初頭には、再度災害防止区間の高潮堤防を概成。
- ・当面の整備目標として堤防断面も脆弱で堤防高も確保されていない平和大通りまでの区間の整備を推進。



広島市内中心部を高潮被害から防ぐために事業を継続する